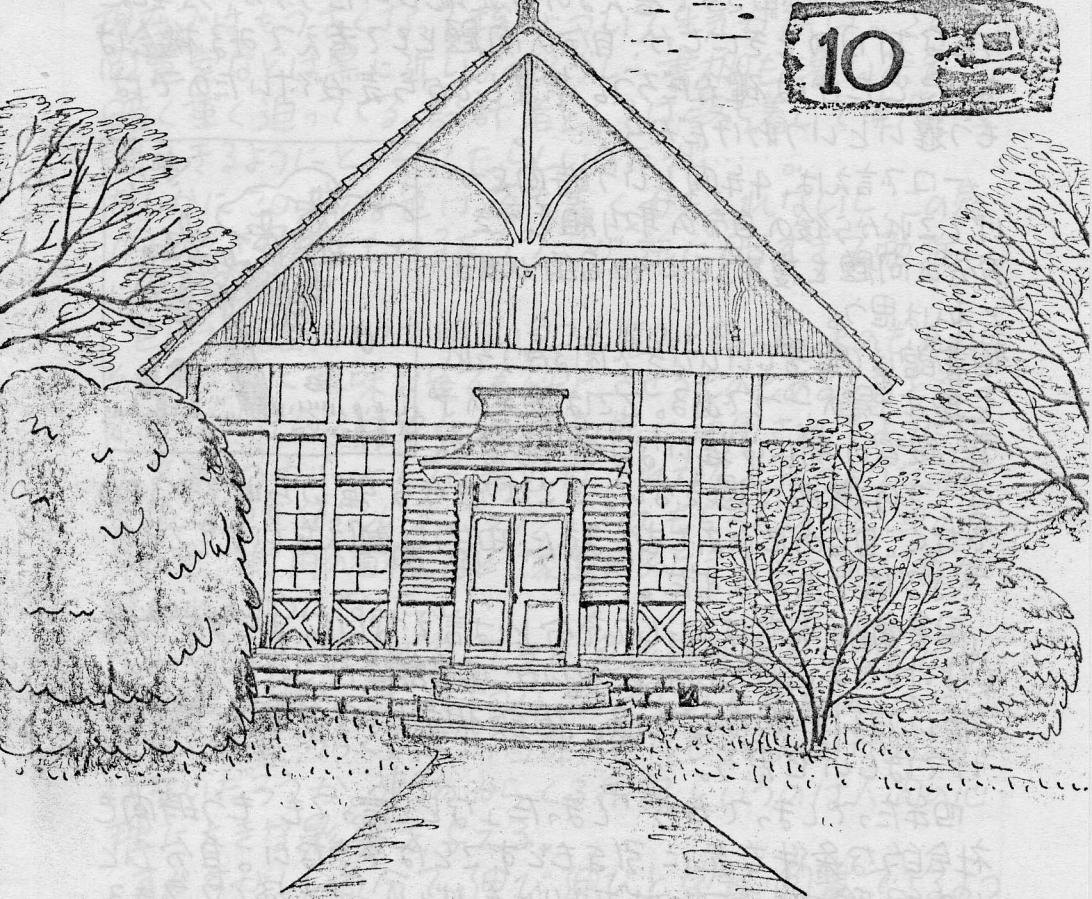


かわく

10



學習院大學図書館
運用課

スタートしたあなたに

人生の折目に立ったとき、たいていの人は「これからは!」とあれこれ心に決めたりするものである。その内容は人さまざまだが、大学生活の一步であるからは、何かしら大学の生活にかかわりのある目標を立てるに違いない。そうでなければあまりにも空しい。

大学へは何を目的にして入るのか、うるさい程向むけているし、それに正面きつて答えるのも恥心しいだろうが、入学したそんな折目のときにしか、自分の問題として考えてみる機会はないことだけは確かだろう。卒業してから気が付いたのではもう遅いといいくけだから……。

一口で言えば、4年間という時間をかけてこれから後の自分の取り組むべき自分の問題を捜すことにある目的がある、と私は思う。

図書館は(堅苦しいひびきで困るが)それを捜す場の一つである。ここは授業の予習・復習の場には違ないがそれはほんの一つの機能に過ぎない。ここは他から強いられてやるものではなく、自らの心のおもむくまに知的な食えをいやすことのできる處であるはずだ。

図書館の現状はけっして充分とは言えないし、まだまだ改善しなければいけない点も多いけれど、図書館員がこれを少しでも補いたいと努力している。相談相手として気軽に話しかけてほしいと思う。

四年たってしまってから「しまった」などと言つても、もう時も社会的な条件も元に引きもどすことはできない。自分ひとりの経験できることはあまりにも狭い。本を通してできるだけ、多くの経験をして欲しい。そして偽せものを見やぶる精神を養つて欲しいと思う。

(佐野)



この春、北1号館のお化粧も済んできれいになった。セメントの肌むき出しのこの図書館が益々暗く、古く、薄汚れた感じになってしまった。同じくても理学部のような建物は見映がするし、重々しくどこに歴史を感じさせる。

わが図書館は外観だけではなく内装も全体に暗いことが第一にあげられる。壁の色は板目をそのまま使用したセメント色で、(これも建設当時は画期的な発想だったらしいが)現在ではもう古くなつて埃がついて生気が無い。さらに閲覧室などは黒に近いようなグレー、書棚も濃い茶色で、暗く重く迫つてくる。設計者としては落ち着いて閲覧・学習できるようにと、どうしたらしいのだが……。

たしかにこの様な色は落ち着くかもしれないし、この感じが好きな学生もいるだろう。が、逆に暗すぎて勉強にくしいと思う。

色とは不思議なもので明るい色でも意外と落ち着くものもある。それとは逆に地味な色でも不安にさせるものもある。昔と違つて現在の社会では色が多種多様に使用されるようになり、文庫本のカバーにしても最近は、これが!!と思ふような程奇抜な色を使つている。ファッションはもちろんのこと、車の色、傘の色、街角の看板など、家庭用品にまでカラフルな色が使われるようになった。

そういう中で生まれ育つてきた色彩感覚豊富な学生に対し図書館が暗く、湿つたような、堅苦しいと思われるのには内装・外装からくる建物自体の色にもその原因があるのではないかだろうか。建物からくる印象というのは人間の心理に大きな影響を与える。

すがすがしい気分で伸び伸びと学習・閲覧できるようもっと明るく気持ちよい色に変えられたらと、高い天井からのほのかな光を背に受けた閲覧している学生を見ながらふと考えてみた。

中年司書のこの頃

ほんとうに久しぶりにスキーをやった。いまさら怪我をしたくないという思いにかられて安全ボーデンとなるわけだが、やはり色気を出して足を揃えようとするのでパタンと倒れる。リフト2本分を降りてきてもう止めにしてしまった。それだけでもうからだ中が痛い。運動不足の中年男になってしまったなとつくづく思い知らされたわけだが、それでも近頃よく聞くオジンヒカオバンとか言う言葉は自分に向けられると不快だ。それはこの言葉が事実としてのオジンではなく、精神としてのオジンのニュアンスが強いからだろう。

正真正銘の中年男にオジンヒ言ってみたところで面白くも何ともない。この言葉は老いた精神の若者にこそ向けられる嘲笑の言葉であるはずだ。なぜなら、有りの年命を加えるということはひげ目などではなく、ひとつつの価値であるからだヒ一戸懸命自分に言い聞かせながら、それでもウーロン茶なんかを飲んでいたが笑いしている。

本の世界にだんだんのめり込めなくなったのを感じて、好奇心がえしくなってゆくことを最も恐れている。人並み以上に本を読んだり、見たり、聞いたりとにかくやつてきたつもりなのに、まだ読んでいない本、まだ知りたいこと、見たいものがどんどん増えてきて、もっと読んでおけばよかったという悔いが益々ある。年に入らないのを良い事にして読まなかつた本が、この頃は盛んに文庫本で現われたりするのでとても追い切れないし、お金も続かない。

司書には研究費などというものがないから本代はもろに家計に響く。家族にすまないとは思いかながらも家中本だけにしてしまう。豊かな暮しこのものはお金が有ることではなく、豊かな精神を持つことだなどと言ってみたところで、子供たちには通じない。

佐々真

~~☆参考室を利用しましょう!! ~~~~

- 必要な資料・情報を探しているとき・・・
- 資料が図書館にないとき・・・
- その他書誌・目録類の使い方など・・・
お気軽に御相談下さい。

たとえば、アメリカのある作家の小説を読みたいと思い図書館を訪れます。著者書名カードをひいてその作家の名前が出てくれば借り出して読めます。しかし、カードがない場合はどうしますか。あきらめますか。そんな時参考係にお尋ね下さい。係は文学全集に入っていないかと考え、「アメリカ文学案内」「人物書誌索引」「アメリカ小説書目」(参考室に備付)等を調べ、全集に収録されているのか解ると全集名からカードを引き目的の書物を提供いたします。

本を探す第一歩は目録カードを引くことです。この第一歩で躊躇した時は、あるいはそれ以前でもわからなければ、ことがありましたら図書館員にききましょう。資料入手への近道です。

(参考係)

大学図書館とはカード目録から始まつてカード目録で終る。カードを引く前に己は未だ見ぬ本の何を知っているのか?を確認して欲しい。書いた人が書名からそれとも漠然とはしているか経済の本とか。その情報によつて当るカード目録が異なってくる。当館には著者・書名目録、分類目録などがカード形式になつて目録室に設置されている。

とにかくカードを引いてみるとことだ。1枚1枚ていねいに引いて行けばめざす書物に突き当る。最初はとまどうだろうか。2回、3回と引いて行くうちに必ず慣れてくるだろう。

用架図書室よりひとくち

古くて大きな重力がない柱時計のあるロビーの右手の部屋が用架図書室です。ここには一般入門書的な図書を中心とし、一般教養はもちろんなこと、ちょっとした専門的な図書まであります。和書・洋書合わせて約2万4千冊配架されています。直接手に取って選出することができます。文学全集も個人全集以外はここにあります。

また、雑誌室も兼ねている総合雑誌から文学雑誌まで、主な雑誌は揃っています。バックナンバーは今年の分まで室内に、それ以前は2階の出納内台で請求して下さい。室内に入るには荷物をロッカーに入れて、利用証を提出してから入室して下さい。無断で室内の図書を持ち出すことはできません。入口に係の人がある時いますので、わからない時は何でも尋ね下さい。(係)

今月の展示

4月はちょっと趣向を変えて、1980年に刊行された本学教員の著作物を展示することにしました。ほとんど揃っているが、まだ図書館に入っていない本や現在貸出中のものなど展示できなかつた本もある。しかし、かなりの量になり展示棚がいっぱいになつた。(2階展示棚)

お知らせ

- 春休みの長期貸出の返却期限がそろそろである。利用証に記載された返却期限日を確認して遅れないよう返却して下さい。
- 4月13日(月)から7月20日(月)まで開館時間が
(平日 8:50～18:30)
(土曜 8:50～12:00)になります。
- 大学院生専用の利用証ができましたので、古い利用証の方は交換して下さい。

あとがき

桜もそろそろ満開になり「春」の実感がわいてきた。今年の冬は本当に寒かった。

これらと並んで『かるぬ』もようやく久し振りに発行できる。製作者の気分としては出しているので、続いている時もあれば、1年くらい 御無沙汰のこともある。いま思えば創刊時に不定期物としておいて良かったとつくづく思う。

そんな『かるぬ』も本号で10号を迎えた。特集を組みたかったが、10号目というのに気づいたのがあとがきを書き始めてからで、もう後の祭りである。

創刊号に比べるとだいぶ充実してきたように思えるが、まだまだ満足できるほどではない。20号に向けてこれからは内容を充実させ、なるべく続けて発行していくことを思つ。

桜が咲けば「新入生の季節」もある。本号は全体に新入生を意識して編集してみた。初々しい1年生、図書館に早く慣れておおいに活用していただきたい。

製作・著作

学習院大学図書館

運用課、かるぬ編集委員会

目白1-5-1.

電話 986-0221(内)395

4月10日(金) 1981

ROCK & ROLL

